

よらしいや
よらしいや

公民館



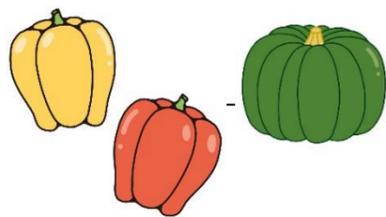
安全マップの作成

今年は元日から能登半島で大きな地震が発生したことから、改めて防災に関する意識が高まっています。

青谷地区まちづくり協議会の地区安全部会で年度初めに話し合った結果、今年度は「地区安全マップ」を町区別に作成することになりました。実はこのマップ、10年以上前に地区安全部会が最初のものを作成し、5年前に更新、今回が再度の更新ということになります。私の家にも5年前に作成されたものを保存していたのですが、部屋の改修工事をしたタイミングに無くしてしまいました。皆さんの家に、5年前の安全マップはありますか？

そこで、地区安全部会の事業としていますが、区長さんにも協力を要請して、区民の多くが関わって町区毎の安全マップを作っていただくようお願いしています。皆が作成に関わることで、今度こそは「記憶にない」とか「無くした」とかならないようにしたいと思っています。内容的には、地震による津波とか大雨による水害を想定しています。しかし、町区によって、裏が山だったり土地が低かったり高かったりと実態が違うので、最終的には町区内で話し合って共通理解することが重要と思います。

5年前のコピーに修正を加えてもらっています。年度内に作成できればよいので、期限は特に設けていません。しっかり話し合われたマップになればと思います。災害時には臨機応変に動かねばならないので、作る過程が大事だと思います。みんなで災害に備えましょう。



とくさんの畑日記



犯人は、やはりお前か！

近所の方の活躍により、畑の周りにはいるハクビシンが4匹捕まり、うちの野菜も食べられなくなりました。今まで、イチゴ、キュウリ、トウモロコシと食べられて悔しい思いをしましたが、今年はイチゴだけで済んでいます。害獣対策として、トウモロコシの周りに「てぐす（釣り糸）」を張って、カラスを撃退しました。カラスは一度地面に降りてからトウモロコシに近づき、安全を確認してから実に飛びつくということです。てぐすに引っかかって驚いて逃げるといった仕組みです。さらに、今年は「蠅取り紙」も設置しました。これは私の完全オリジナル。昔ながらの蠅取り紙が毛に着くと動物も嫌な気持ちになるのではと考えました。設置している最中に自分の髪に付いて、私が嫌な気持ちになりましたが…。

それからは、イチゴ以外何も取られていません。やはり犯人(?)はハクビシンだったということになります。しかし、山の方にも畑を借りているのですが、そちらはカラスにスイカを1個だけ食べられました。動物との戦いはやはり続きます。



またまた登場。犯人と思われるハクビシン

シリーズ 知っていましたが、青谷のこと？ 青谷かみじち史跡公園で古代米を作っている？



青谷かみじち史跡公園では、弥生時代の生活が分かるようにいろいろと工夫してあります。その一つとして、「古代米」を実際に作っているそうです。それも、普通に作っているのではないようです…。史跡公園と青谷高校に行って、いろいろと調べてみました。

◎古代米とはどんなものですか？

・昔のイネが持っていたと考えられる特徴が見られるイネの品種です。古代からあまり品種改良をされなかった品種で「赤米」が代表的ですが、「黒米」「緑米」も有名です。

◎青谷高校の生徒さんが、青谷学として古代米を作っているとか？

・弥生の米作りについては分かっていないことが多いので、青谷高校の生徒さんは、「弥生文化探求」という青谷高独自の教科として、できるだけ昔の品種の稲を育てて解明しようとしています。例えば、「普通の間隔と密にしたもの」「品種の違い」「草を取らずに育てる」などして収穫量にどれだけの差が出るか、などいろいろな実験をして、稲作でまだ分かっていない部分を実験で解明しようとしています。

◎すごいですね!!

・他には、弥生時代にはどのような稲を栽培していたかとか、どんな水田を作っていたのか等、難しい課題にも取り組んでいます。

◎水田の利用は、他にもある？

・この水田とは別に、青谷小学校の5年生が育てている古代米は、イベント用や、近くの学校の給食として利用されています。

◎有り難うございました。興味深い実験をされたり、古代米を利用したりしていらっしゃるんですね。

※これらの実験の成果は、11月3日のかみじちフェスタや、12月に青谷高校で行われる成果発表会で一般に公開されるので、見に来てほしいと言うことでした。



左は普通の間隔、右は密に植えたもの。収穫にはどれだけの差が出るのだろうか。

おわりに

先日、「わくわくする青谷駅を考える」というワークショップが当館で行われ、NHKのニュースで何度か放送されました。見たよと教えてくださる方が多くてびっくりしましたが。鳥大1年生の小谷峻一さん(西町)が主宰した会で、地域学部の学生さんや大学の先生、地元の大人などの参加で、主にグループ毎のワークショップ(話し合い)を行いました。まだ夢に近い話ですが、ここで地域住民が動かなかつたら、青谷駅はバス停のような寂しいものになるそうです。私は地域づくりについてみんなで考え、わくわくする駅になってほしいと思いますが、皆さんはどう思われますか？